

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101867		
法人名	有限会社 美母愛		
事業所名	ブルーホーム くまのの郷		
所在地	宮崎市大字熊野字熊野7287番地1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&lievosyoId=4570101867-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設には5か条からなる理念が2つある。『ケア理念』と『地域参理念』である。共に大きな柱であるが、特に取り組んでいるのはケア理念である。職員全員が共有し、念頭に入れて介助を行っている。季節を感じることでできる行事(花見、敬老会、忘年会等)に加え、地域で行われる祭りに参加するなど、地域行事にも参加している。地域運営推進会議においては、家族、民生委員に加え、他のグループホームや高齢者施設の職員も参加し、意見を取り入れ、マンネリ化しないように努めている。また、郷の庭には畑が完成し、家庭菜園も楽しむことができるようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と全職員で理念(1やさしさと笑顔をもっとに 2その人らしさを大切にする 3普段の暮らしを提供する 4孤独にせずに、声かけする 5入所者の『今』を大切に)の実践に積極的取り組み、利用者一人ひとりに心を傾けて、利用者の穏やかで笑顔あふれる日々の暮らしを支援している。利用開始後、食事などの日常的な支援の積み重ねで、状況が急激に好転したり、本人の希望に沿い、家族や医療機関と連携し、他の利用者に見守られながら穏やかな看取りの時を支援した経験を通じて職員が一丸となり、職員の提案の実現など、新たな取組に対し前向きな姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては、『くまのの郷5か条』(ケア理念)を掲げている。理念は5か条からなり、職員はそれに基づき、業務を行っている。ケア理念は施設玄関に掲げてある他、全スタッフが持つ『職員ハンドブック』内にも記載され、職員は出勤の際に持つようにしている。	管理者(代表者)は、年度初めに理念の思いを職員に伝え、見直し等について職員の意見を聞く機会を設けている。職員一人ひとりが理念を深く理解し、利用者が今を大事に、その人らしく暮らせるよう、全職員で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時から自治会に参加し、祭りの準備や清掃に参加している。また、『地域参加5か条』を掲げ、実践している。	地域の清掃や溝さらいの活動、神社の祭りの準備などに参加して、地域との交流を積極的に行っている。地域の人々が訪問したり、相談に来たりと、福祉の拠点としての役割も果たしつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お便りの発行の他、地域で行われる『認知症キャラバンメイト講習会』に講師スタッフとして参加し、認知症介護について、地域の方々の前で話したりして、地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、近隣の民生員や地域の自治会長、他のグループホームや有料老人ホームの方も参加して、意見交換を行っている。地域の方の参加が少ないという課題がある。	定期的な実施し、ホームの状況や行事を報告している。メンバーに他の福祉施設等からの参加はあるが、地域からの参加がなく、双方向的な意見交換が行われていない。	運営推進会議は、地域の理解や支援を得るための貴重な機会であるため、地域からの参加に取り組み、メンバーからの質問や要望を受けた双方向的な会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加している他、市の担当者への電話相談や直接出向いてアドバイスをもらうなどして、サービスの質の向上に反映させている。	管理者は、日頃から相談や報告に市へ出向き、市担当者との関係を築いている。市主催の研修は積極的に受講し、市から依頼され、講習会の講師スタッフとして参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束マニュアル』を作成しており、身体拘束がどのようなものであるのかは周知されている。	外部・内部研修で身体拘束をしないケアについて繰り返し周知し、理解を深めている。テキストを作成し、職員に配布している。拘束のないケアで、利用者が抑圧感を感じない暮らしができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設では、職員には高齢者虐待について研修を行っている。その他にも外部の研修に参加している。		

宮崎県宮崎市 グループホームくまのの郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修においても、成年後見制度については取り上げている。利用者の方にも成年後見制度を利用している方もおり、その実行には必要な知識であるため、職員には理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約の時間を設けて説明を行い、不安の解消に努めている。また、契約内容に変更がある場合は、文章発送の他、来郷の際にはご家族に直接説明し、同意書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族からの意見や要望を出しやすくなっている。施設内においては自由記帳がある。家族会は地域運営推進会にも参加している。外部機関への相談の場合、市役所の介護保険課や国保連合会、県社会福祉協議会運営適正委員会の電話番号を、重要事項説明書内に記している。	家族会が組織されており、家族が来訪する機会が多く、その折に声かけをして、話す機会を持っている。出された意見や苦情は、全職員で話し合い、早急に対応し、サービスの改善に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや連絡ノートにより、職員の意見、提案の場を設けている。また、会議でも各々が発言できる機会をもっている。	月1回の会議やミーティングで、意見や提案を聞いている。管理者(代表者)は、職員と一緒に利用者の支援にあたっており、日頃から意見や提案を言いやすい雰囲気ができている。提案等は即座に検討し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人が希望する資格取得の為に、勤務体制の調整や研修費、教材費の一部援助、資格取得後の登録料の一部支給や資格に応じた手当の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一度、施設内研修を開き、研修を行っている他、外部研修にも参加してもらっている。外部の研修に関しては、施設からの案内の他、本人が見つけてきた研修も検討し、参加できるような勤務配置を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入し、他施設との情報交換等を行っている。他にも地域包括支援センターと情報交換をしたり、運営推進会議には他のグループホームや有料老人ホームの職員も参加してもらって意見をもらっている。近年では年に一度ではあるが、近隣のグループホームの行事に参加することも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される方が自宅の場合には、家族や親せき、親しい方（同意を得た上で）にも本人の状況を聞き、施設を利用されている方には施設の利用状況、入所経緯等の情報収集を行うことはもちろんのこと、サービス開始前には、本人と直接話ができる機会を作り、傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には本人を交えての説明の他、ご家族のみとの話し合いも行っている。家族は入居前に何度も連絡を取り、不安や要望をくみ取り、できる限りの対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークやアセスメントの時に、本人の意見や要望、家族の意向を伺う。その中で、必要とされるサービスを見極め、入所前の会議では職員間で共通意識を持ち、支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に洗濯物を干したり、食事の面でも野菜を切ったり、もやしのひげとりをしたり、掃除でモップかけをしたりと、共同で生活している関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、利用者と一緒に草取りをしたり、焼肉会などの行事をするなど、利用者本人を家族と一緒に支える関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の多くの方が市内出身であるため、外出（ドライブ）の時には住んでいた家や地域に行くようにしている。	知人や親族が来訪される利用者がおり、継続できるよう支援している。ドライブの折に利用者の思い出場所に立ち寄っている。家族の協力も得て、昔住んでいたところやなつかしい場所を訪れる取組もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室で終日過ごす方はおらず、常にホールに集まり会話をしたり、一緒にテレビを見たりしている。体調がよくなく、（医師の指示で）終日を居室で過ごす場合にも、親しい方が居室を訪問するなどして、孤独にしない取組をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会やお便りなどを通じ、関係を大切にしている。利用されていた方がお亡くなりになった時は、葬儀にも参加し、その時の家族の様子を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何をしたいのか、どのように暮らしたいのかを日常の会話の中でくみ取り、把握に努めている。困難なものに関しては、本人の希望に添えるように努めている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用し、日々の記録の中に利用者の思いをうかがうことのできる記述が多く見られる。寄り添う時間を大切にして、暮らしの中から把握している。職員全員で情報を共有し、本人本位の支援になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親せきの方、自宅の場合は近所の方、施設サービスを利用している方の場合他施設にも情報提供を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はケアプランはあるが、本人の体調、精神状態によって変化し、いわゆる『時間割』的にはならないようにしている。心身の状態は、起床時(朝6:00)に体温、血圧測定が行われ、把握に努めている。有する力については、日常の会話や介助の中で本人が出来ることを見つけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意向等を受け入れたケアになるように、職員全員で話し合い、プランを作成している。	本人は日々の暮らしの中で、家族の意向は来訪時に把握している。職員全員で話し合い、計画を作成、見直しをしている。その際は、介護計画書を配り、全職員がプランを認識し、検討できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の介護の様子は、ケース記録(24時間シート)に記録している。その他にも『ヒヤリハットキッズ』も作成しており、気になった時はそれに記入している。必要に応じて『連絡帳』に記入し、共有している。それらも介護計画には反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の外出希望や(県外の方の)面会にも対応している、また、本人に関することではなくとも、福祉に関することで相談がある時には応じている。		

宮崎県宮崎市 グループホームくまのの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事に参加し、地域の中で生活していることを感じてもらっている。今後、地域での外食や買い物によりできるように努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域で行われている行事に参加し、地域の中で生活していることを感じてもらっている。今後、地域での外食や買い物によりできるように努めたい。	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。往診が多く、情報を提供し、連携を図っている。通院の際は状況に応じて同行し、病院との関係を築いている。訪問看護ステーションが定期的に健診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週に1度定期的な健診を受け、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、また、家族からも1週間に1度は経過報告を受けようとしている。また、かかりつけ医と入院先の病院が異なる場合、入院先で得た情報を同意の上でかかりつけ医に伝えることも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化した場合やターミナルケアの在り方について、看護師やかかりつけ医と検討して方針を整えている。昨年、看取りを行い、『看護師』『主治医』『家族』『後見人』と連携しターミナルを迎え、終了まで行うことができた。	重度化や終末期の対応が、重要事項説明書に的確に記され、本人、家族、職員が方針を共有している。看取りを実施しているが、方針に従い、医師、訪問看護ステーション、家族と連携し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会に職員が参加し、緊急時の対応ができるよう備えている。緊急の際は、緊急対応マニュアルに基づいて行動するように職員は理解している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や地域消防団との連絡の構築を行っている。	年2回の防災訓練を実施している。特に夜間、担当者は意識を高めるよう取り組んでいる。地域の人々の協力を得られる体制が整うまでには至っていない。	地域の人々の協力が得られるよう、一緒に訓練を行うなど、積極的に働きかけ、また、種々の災害を想定した実践的な訓練に利用者も参加して実施できることを期待したい

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護法に基づき、個人情報に関する記録物は事務所で保管している。プライバシーを損ねる対応はしないよう留意し、支援している。	一人ひとりの状況を把握して、人格を尊重した言葉掛けや支援を行っている。居室やトイレの扉が、利用者が使用していない時に開けたままになっている。	居室やトイレの扉は、利用者の人格尊重やプライバシーの確保のため、換気の時を除き、閉めるよう検討することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に問いかける場合においても、質問の仕方(『閉ざされた質問』『開かれた質問』)を使い分けることやホワイトボードによる筆談など、本人が反できる場面を作り、自己決定ができるよう分かりやすく対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿い、ケア理念の一つである『今を大切に』し、穏やかな生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定ができる方にはその日に着る衣服を選んでもらったり、医師決定が難しい方には家族よりどのような服が好まれるのかを聞いたり、好んでいた系統の衣類を持ってきてもらう他、定期的に理容室に来てもらい、散髪ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を聞いたり、例えばカボチャの好きな方には実物をみてもらい、それを今から調理することを伝えて食事を楽しむ感を出したり、利用者の出来ること(食器洗い、食器の拭き方、片付け、米とぎ、野菜の選別、台所掃除)は職員と共にやっている。	利用者の好みを考慮し、庭で育てた野菜を生かし、職員が工夫を凝らした家庭的な献立になっている。下ごしらえや食器洗い等、利用者も一緒に行っている。ミキサー食の利用者もいるが、皆と同じ味わいになるよう、細やかな配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、ケース記録や排泄チェック表にて把握しており、1日、食事が摂れていない時には主治医と相談している。食事嚥下や咀嚼能力に合わせ、調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立・一部介助・全介助・うがいが難しい方には、飲み込んでも差し障りない歯磨き粉の使用・ケアスポンジを使用しての口腔ケアなど、個人に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	いつ誰が排泄があったかというのは、排泄チェック表で確認できるようになっており、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	一人ひとりの状態を排せつチェック表で確認し、さりげなく誘導してトイレでの排せつを支援している。入院時にオムツを使用した利用者也、退院後は、トイレでの排せつができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や緩下剤が処方されている方には、排泄チェック表により排便コントロールを行っている。また、毎日乳製品を飲用することや食事前には口腔体操（当施設では健口体操）も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回（『月・水・金』『火・木・土』の2パターン）の定期入浴をしている。毎日入浴はあっているため、その時に入浴希望があれば入浴ができるよう対応している。	週3回の入浴日を設定しているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。座位の保てない利用者も抱きかかえて、湯船を楽しんでもらうなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なシーツ交換や布団を干したりすることでベッドを清潔に保つことや日中に体操、散歩、ドライブ、買い物等を行い、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は必ず確認し、効能や副作用を確認している。変更時は連絡ノートにて周知している。薬は食後、薬ごとかつ個人ごとに色分けされ、その仕分けは管理者とケアマネジャーが行っている。服薬する時は『服薬マニュアル』に従い実行される。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割はADL面を考慮して、嗜好品は本人に合わせて、楽しみごとは本人が笑顔になるように利用者個別に本人のニーズを取り入れた計画を作成しており、それに基づいてケアを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーや神社は散歩コースの一つとして出かけている。他には地域の祭り、季節の花見（曾山寺、一ツ葉、椿山）など、利用者の希望に添った外出の支援をしている。	花見など、季節に応じて外出している。近隣のスーパーや神社、祭りに出掛けている。家族の協力も得て、利用者の故郷や思い出の場所を訪問する取組もしている。	

宮崎県宮崎市 グループホームくまのの郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、本人で持つことが難しい方には施設で預かり、本人が気になる時には財布と残金を実際に見てもらっている。また、利用者本人でお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、家族(近く、遠方の方も)へ電話をかけている。本人で、電話をかけることが難しい方は、職員が電話をかけ、相手と通じた状態で本人と変わるよう支援している。電話に関しては携帯電話を使う方もおり、持込に關しての制限はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物があり、玄関からみえる景色は近くは畑、遠くには山が見える。また、近くには高い建造物がないため、玄関の窓からは心地よい風が入ってくる。食堂を兼ねたホールにもその風は入ってきて、過ごしやすい空間となっている。明るさに関しても、刺激にならないような明るさのライトが設置されており、それが廊下、居室を照らしている。また、ホールにはテレビやソファが置かれ、ゆったりとくつろげる空間となっている。ホールからは郷の芝生の庭や畑が目にはいり、楽しむことができる。廊下、洗面所、浴室には手すりが設置され、安全性を確保する配慮がされている。	ホールから庭の畑が見え、収穫間近の野菜や花が楽しめる。光や風通しに細かな気配りをしている。台所で食事の準備をする姿が見え、おいしそうな匂いも漂い、利用者を和ませている。少人数で座れるソファが数脚置かれ、くつろげるスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール(共用空間)はソファが大人数で座れるものと、少人数で座れるもの、テーブルが2か所設置しており、一人でテレビを見て過ごしたい時には少人数で座れる席で過ごし、利用者同士数人が談話する時には大人数で座れるテーブルを利用するなど、それぞれ共用空間で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後に、その方の使い慣れた家具や調度品、家族の写真を持ってきて、心地よく過ごせる空間ができるようように工夫している。写真に関しては貼るスペースがついている。	居室には写真を飾るボードが置かれ、利用者は思い思いの写真を飾っている。使い慣れた家具や小物の持ち込みを助言し、それぞれの利用者が居心地良く暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室前には表示(人によっては同意の上で名前を掲載)、目印をつけて、本人が分かるように工夫している。		